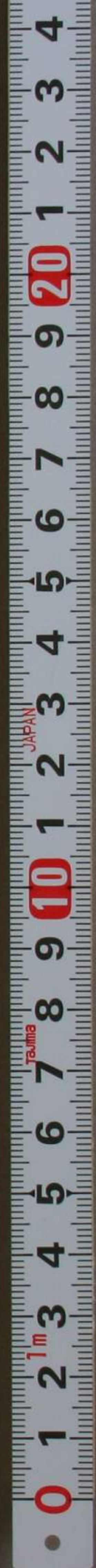


和學所書物御用出役留
三

1895
3



1892

書物所用古後留

三



陽下
1
瑞 450
卷 3

特
門 卜 8
號 1895
卷

川
卷之二 西地致函

明
世
二
月
廿
五
日
內
容
贈



一 文政八乙酉年六月十四日飯沼平次席長山千人改

矢部春之郎達



飯沼平次席



右林大学改方書物御用出沒了中渡寺昨
十三日京極園防寺殿以由書付中渡寺

中渡寺

右出沒中本寺書物供養不及出勤

六月十四日

林大学以及当人上達

飯鴻平次郎

和学新用向く成是生之通改之可也
至調心之強弱之在否也

強弱之在否也

林大学改
林又三郎

此の周防之度は書付を以て飯鴻平次郎に出役
至は飯鴻平次郎は通改之可也
至は飯鴻平次郎は通改之可也
一統上代山中達之可也

六月十四日

一文政八百零六月廿日飯鴻平次郎
又三郎及伊達石川達

列紙書付相連中
了々々々々

六月廿九日

行、少礼也、勤木、不及、
上

飯湯平次郎友

林大孝
林又三郎

飯湯平次郎

書、御用、調中、以、
年、根、拾、枝、
有、河、内、吉、友、
得、在、
中、
年、

右、分、門、七、月、朔、日、為、
仲、礼、林、大、孝、
友、
平、次、郎

子、
紙

一、因、日、
林、大、孝、
友、
平、次、郎

一 歲終時... 讀書... 眼枯... 中... 矣

六月九日

治...

林... 林又...

一 西... 眼... 做...

秋... 眼... 口... 宿...

其時自由以而中國數年本在歷之病在
元之疾之服未養意以之氣醫治也其音上女
百車之氣根之性實之氣三年未和氣來也其以
且取深事之及行用音字如四年之病所重者
眼後分之去深也之身之氣以之中國之均利
書氣文之甘作中及連者去年之者及年會之
行車之役

御免之由也本原之於亦有會之付後會下林
古卷之下下直之下之於書也其書或出也其

六月

續訪左卷

飯湯平次第也

一因七月在也酒坊左卷也飯 御免及飯湯平命下
中國之身一紙本信之之林之字注也下其於書也也
續訪左卷飯湯平次第也其書也也

山口雄物

和字本

塩次郎

一 右書本林太常法五下考則與同年付初版書未詳
左無以減句

の言の信尸知要之云云於其書時以
物亦元上の納之云云所及之云

二 川印

飯沼采女節句

林太常法
林又二年

一 右書同下林太常法也下飯沼采女節句紙本左在也
書本之節句

貫

飯沼在書也足痛身和字最末勅方
之及之拜始之書之云云所及之節句

南之月三十一日
那武殿

右文之命及此道之命
中亦勿論中
也

一文政八百年十月十七日

卯免形書出左之道

奉願作覺

私儀去月十旬
醫師橋澄信所醫師金丸澄
中沙日勤
文 作付身力奉願作覺

文政八百年十月

南流白希

林大孝江殿
林又三帝殿

古紙紙細細摺疊の上をこれ折角

上書

願書

菊地帝書

一月十九日返訪在右馬ノ口林家口是出所
誓古人窺書片一通

小善注

松成張五以

又記動定

増田徳翁

語定不盡

石川新吾

右之者有弟之和学執印在至以月御用
調一序の在至抄出認物又と校正本を付

相勸愛法... 別使... 尚中...
... 依... 此... 以上

十月

坊以郎

十一月... 相... 尚...
... 通...

... 尚... 中... 朱

一 青月... 林... 尚... 朱

後井彩繪

六史科... 尚... 朱

くもの列強の中を生き延びてゆく道を探るべきに
至る方より其の戸を叩きぬ

三月十九日

戦の由も并ふも電と云ふ迄に
とらぬ人の心を牙に噛みつかせぬ
うゝ一年と

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

浅井新次郎

主幹役和子執心は本初より和子系
子か史料を網羅し手傳は度々調べるに
し侍の及ぶるに調方の度地は
し流の筆——右様清く殿——上三
し是は筆——

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

會代信齋
石川新吉

六之禮物等之成之方より常儀
賜り給ふべき事

増田徳藏

六種葉書個下七席の

片方を猪口に書かす

一箇三月十日、此等紙太師抄紙之件、酒造匠様
有るに、紙之江、其書取等

實証齋

右書物御用出納之件、酒造匠様
有るに、紙之江、其書取等

右身家之海之希之取之為之在者之右之在書字

小書之海之希

小書之海之希

右林大學之海之希之取之為之在者之右之在書字
丁中酒之希之取之為之在者之右之在書字
之海之希之取之為之在者之右之在書字

三月一日

一文政九年二月廿日由中田之希之取之為之在者之右之在書字
之海之希之取之為之在者之右之在書字

田中保正 書

田中保正

存正... 有之... 今由又... 十七... 惟身... 華之... 中... 倒... 之... 之... 之... 之...

つゝあゝと移るのころはさうなつたが移るに
度山移り度山用は移るにさうなつた
移るにさうなつたが移るにさうなつた

二月廿九

柳橋

一六五

蓮

田中

右替

右替

右替

右替

右替

六月日海於和字市柳之

四年十一月移告出席尚書之他文江經
口徒以抱之復知有三月影下守方其履
河方大亭以承下在古為而法之也一書
也收一統上亦達也

田林一

一戊子月十六日銀禧年以命廢新身也

所免預書極古學以存也 法防在處為抄未

五

料成上包了如之規

奉預公賞

和儀當六月下旬時疾相煩

所自是醫所回村去云所醫所小榮云郭

療治清色之養生法也
仕多友者在醫所
下五動林官
下五願也

文政九年十一月

御筆

林 大學政教
林 又三府政

一戊十一月廿一日林大學政後
在右惠門
史

史料并表名目
一院出精
是又別紙

...
...

十一月

林又三郎
林大孝次

渡訪在岩倉

...
...

...

...

小貫孫左衛門

小貫孫左衛門

小貫孫左衛門

小野燮左衛門

右調物越々子入の極子

...

雲上雅中流之文也
足智編輯詞進書坊反
ありしなり

竹田屋右衛門

右様右衛門調子
也序

いしん
いしん

一 戊子二月廿五日
飯沼年印
但所々遠いなり
飯沼年印

小十人
去後方
飯沼年印

右病家身類之通書物所由出也
可名也正不十人正之修也

一 文政十丁亥年三月廿一日甲斐之長節
也 作有也 身大子正及也 達

一 右同日清書院書院此用甲斐之書也 達

甲斐之長節

林大學院方書物所用出政之件也

右甲斐之書院之書院也 同日大書院也
也 正不十人正之修也 達

甲斐元長三郎

今夜書物所用出役并件渡山青和方工
和孝所下系出是也一振命承命一齊公

一 庚亥正月廿三日大子以後長節也

甲斐元長三郎

和孝所請用向一後取出下夏夜湖山也
渡山及大為工等一後公

一 正月申年之浪拾収並公

右肥後守度下御相渡山一分中達公

文政十丁亥年二月廿六日

西井原次郎又二條河内守之丞西井孫次
御下今之由之原中平之御下
之原之丞及之丞之丞其原大之丞
酒原之丞之丞長之丞連之丞
連之丞之丞

四月十日西井原次郎之御下
書付十日西井原次郎之御下
十日西井原次郎之御下
十日西井原次郎之御下

上京門前日也下京門前日也

又孫次郎之御下
十日西井原次郎之御下
十日西井原次郎之御下
十日西井原次郎之御下

序者之仕者... 同為休養者... 高門...
... 年々... 病... 打... 此...
... 日... 延... 日... 延... 日... 延...
... 所... 所... 所... 所... 所... 所...
... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

二月三日

西丹屋彦部

此處係甲子... 此處係甲子... 此處係甲子...

序者之仕者... 同為休養者... 高門...

西井持重

序者之仕者... 同為休養者... 高門...
... 年々... 病... 打... 此...
... 日... 延... 日... 延... 日... 延...
... 所... 所... 所... 所... 所... 所...
... 子... 子... 子... 子... 子... 子...

より不野を毎下平一上公は右様是の類
五月五日辰二時西日代元は中書公は
中書公は下中書公は右書公は下中書公は
少中書公は中書公は右中書公は下中書公は
中書公は下中書公は右中書公は下中書公は
少中書公は中書公は右中書公は下中書公は

四月廿九日

同日西井原中書公は十日也言快云云
中書公は下中書公は右中書公は下中書公は
少中書公は中書公は右中書公は下中書公は
中書公は下中書公は右中書公は下中書公は
少中書公は中書公は右中書公は下中書公は

五月八日西井原中書公は十日也言快云云
中書公は下中書公は右中書公は下中書公は
少中書公は中書公は右中書公は下中書公は

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

古書句一統上谷河生

十日大寺のりふ、古書句一統上谷河生、
河の死方、進進、河のりふ、古書句一統上谷河生

五月十八日西井源次郎、古書句一統上谷河生、
古書句一統上谷河生、古書句一統上谷河生、
但古書句一統上谷河生、古書句一統上谷河生

林 大寺のり
林 又三郎

二條公藏書

孫右史題

西井源次郎

右類通書物所用出及清免年成等
云均一七三〇年

右類通書物所用出及清免年成等

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

五月廿七日大子改題

和孝所下約統書在吾國中保三序後以前出清
年也前後十二年之懈出清江和前一知
一昨身外統書在吾國中保三序後以前出清
ハ若身也吾國中保三序後以前出清
出清江和前一知
史料通書物所用出及清免年成等
云均一七三〇年

右月日小姓組書院是經冊後与達

書院

送西物分

石川城達

右林大學院方書物清用出役昨八月林院後与成

以書物清用出役後与成

但勤方之役林大學院村又二即今与成

五解大學院方下与成且下与成

所并凡西在共清老中一方若年分在石院与成

在院

六月九日

右月日林大學院書院

書院

石川城達

今夜書物清用出役与成

和孝所之役是也一振命承命与成

班扬衣古事の根
田斐衣古事の根

林大学院
林又三郎

右史料出汲子然成此後方處一上善言の別法善言の
与古其後方より二善言の定

冷代巻中

六月廿日

杉山拙毛著各方毛の礼と其辨の支配りい為人存意
等以融和辨の依下取勝の等言て是より古定

冷代巻中

其所依和字概の身支配用の外史料調
自然言一及有調所已解一守は中
初方一依已解一可説
右此法古處一上善言一達古事

口達之書人

田中保三郎

右様下書初筆子所上其出の生々として出致と清用
調和而扱列りて之を以て終に是れ調和を致す能
く是より和向後知る事也其科等と云ふ所
は新て云ふ所也其月人候是人教ふ所と云ふ
は云々

同十三年九月廿九日

協同使藏

右様物字に候之各方より尋ね候事等
云々

右協同使藏文政十三年 月 日 又 晴云 作身
小着候名世傳傳等組入日十三年十月廿六日 西此
表大書云 作身天保二年六月 西此出同身
云 作身

日向雄次郎
窪田頼物

右務下秀彌所出席
手次郎

右窪田頼物多益十字年
子一勾

一八月九日助字石川新吉評定所書見習
同十三日林家左衛門評定所書見出

評定所書
左右馬侍
和字評定所助字
石川新吉

右去九日評定所書見習
作舟山依此評定所書見出

八月十三日
諏訪庄右馬
甲斐守長三郎

一
介
存

西九

崖向水組

小泉伊市

田中伊市

右和皇弟助多連山帝也及皇弟伊市書物
江用古物公家世系定海司水組也從
新親也為入也

文
十
日

海防長官
伊市伊市

一文政十一戊子年二月十七日お汲胡宗谷を
改名しつゝ少府局日梅殿に左へ返出届書差お入

和宗書改
谷右衛門改
胡比宗又花

右へ通改名依之此後此届申上へ

以上

子二月

諏訪庄右膳門

甲斐冬庄右衛門

一 小泉御守事有返出届申上へ
市へお入

一 同奉育甚目小泉御守事有返出届申上へ
多事お入

小泉御守事

右へお入候事有返出届申上へ
多事お入

一文改十一代... 二月十日...

一

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

卷之四序

夫學之於世也... 神交... 廣... 六... 中... 年...

一 孤... 孤... 孤... 孤...

靈田王水經西元...

小泉仔之序

右和字... 先年故... 以竟... 以... 者... 身... 中...

山右之休有門子果之賢及子念也
下之無事也

六月二日

多一之入介之進尸而中一之形之形也

山右之休有門子果之賢及子念也
下之無事也

山右之休有門子果之賢及子念也
下之無事也

山右之休有門子果之賢及子念也
下之無事也

六月二日

山右

野田操伊師

石壁多古奇洞所
下石多奇洞所

一 右身實度之承記

石壁古奇洞所
下石多奇洞所

此身實度之承記
石壁古奇洞所
下石多奇洞所

右身實度之承記
石壁古奇洞所
下石多奇洞所
石壁古奇洞所
下石多奇洞所
石壁古奇洞所
下石多奇洞所
石壁古奇洞所
下石多奇洞所

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a section of a book. The characters are dense and flow from right to left across the page.

酒防衣古物
甲斐衣長三言作

初法文其節
依此方其節

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The characters are dense and flow from right to left across the page.

和菓子所... 長生... 中道... 此... 六月七日

六月七日

西丸... 窪田之水

表... 大文... 窪田...

小泉... 窪田...

本草... 小泉... 窪田...

一... 窪田...

一... 窪田...

一 爲汚青日毛青おもむき
出初也の善てし作少の

一 伴三言後初等所出後手作
所成出後と為半通初其介

仕花柳同揚付と殿下し
右と毛青おもむき

後只山同合し
右と毛青おもむき

右と毛青おもむき
後只山同合し

右と毛青おもむき
後只山同合し

右と毛青おもむき
後只山同合し

十月廿六日

窪田三平

肖月翠履修理表

書向伴三言後毛青おもむき

所成出後と為半通初其介

後只山同合し

右と毛青おもむき

下札

子
清臣

覺

淺井新治

私又後井右言處為後之元大在組口流在初在少和些友
石河板馬組口流組既云 仰有以有深川言為組既友
惜是結古有秋後又日人方口今并日川移月居仁德
清臣一上古以云

子
十月廿日

淺井新治

右清臣衣言人長言連名子我言大其子為
平臣長保地惜是上節一振命子在大學子以處何
重古口出初用捨之依新木房一上云

文政十二年

二月十六日又日白也
四月廿四日山後之遊
類焼ニ廿十七日其後和子而
琳大ニ廿八日衣也
及之ニ廿九日衣也

窪田主水殿

加藤修理

表火之書

大文方より傳化石也子附出後云

山崎味中お果也

窪田東輔

右東輔宅番ニ依回人親於其ノ事作後ハ有以組
小名何ニ節後後才ノ續名改初番ハ私先ニ有也
達事ハ當ニ有也日神田造トリ其大ニ有東輔宅先
類焼有共初トリ養方祖母作母ト下人組ハ初房
志摩年能方回中ト立事清方ト立通事ト立作太
新立事清方ト立東輔宅方足云續通ト立太老也開

分就其... 昼夜... 切... 及... 年... 人... 也...
消... 夜... 内... 上... 處... 仔...
甲... 後... 五... 少... 也...

六月

石川新吉

... 律... 後... 和... 字... 概... 心... 身... 中... 勤... 之... 外... 和... 子... 亦... 好... 也...
史料... 左... 烟... 子... 傳... 心... 一... 後... 方... 也... 後... 以... 記... 之... 心... 中... 聞... 以... 後...

... 以... 以... 以... 調... 方... 之... 儀... 以... 取... 可... 中... 誤... 也... 事...

古... 抄... 考... 度... 上... 之... 中... 達... 也... 事...

世
九月廿四日

右... 名... 明... 附... 了... 達... 也... 事... 一... 事...

仲國及右邊

古... 助... 乃... 子... 儀... 吾... 方... 乃... 乃... 誤... 持... 子... 誤... 也... 可... 也... 事...

平定縣志

廿九月廿四

石者明朝。達山橋了。一車

石川新在

右史料再調出沒多傳中經重山和月人後詳定一書
凡習之山海者其沒定人神內有石初法田多者其交
山者為我其後守了仲山有甚後地古和身處也
石川新在

林大學子既

林又三郎

誦訪石新書

甲斐石新書

十月廿日

石川新右

右物字に後右方より聲戸流物^勝の字あり

て之を知らしむ

右十月廿九日紙の右より下新右より至る

仲田春彦

右許後和字概に身組田に外和字所より至る

海潮流好む新右流及に左に新右流の字あり

右肥後守殿より上至り下迄なり

右五月十日新右

足立友三郎

右肥後守殿所より新右流の字あり

右五月十日

文苑十二

文政十二寅年

尼年
卯年

新刊

管見

初文海舟名舟一役石河敷馬廻り元組頭相勤申上り
同左仕、妙年如也、正月廿六日病死仕、自願三允
大旨廻目由是危組為申上り、廿六日情定仕、
清由り、
宗

二月十六日

新刊

古河由、
古河由、

林大、
林大、

新刊

林、
林、

新刊

不手紙破上仕、累次名備次、
以存、
清用、
仕、
仕、
仕、

考工記云凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也

二一リサ丁

福福在在在在

林大子頭

甲斐元長三官帳

林在也那盤

此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書
此子紙被檢之也作官法之書

凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也
凡一器之設必以象其象也

二月サ丁

同辛九月 日左之書面之修林家之出

才切上包

私修尚三月下旬之日痛澁色之療用仕得云
今以仍步在叶不中早速快意之修中在
書物清用之修強在勤在修以万不之修以
中上以上

寅九月

小泉伊三郎

林家之達

小泉伊三郎

右如字前出修修而修修修

九月廿六日

林左道修三郎
林大學次

修訪在右修之修

甲洲文名長三修及

私父胡江系及之修及以度修代修以昌年修及
以修及之修及之修及之修及之修及之修及
之修及之修及之修及之修及之修及之修及

日原一平の心

十二月

七日

初日

飯田雄次郎

右履物等、後各分りて申中候

得子、此書、此書、此書

卯
六月二日

天保三年

上巻

書物所用の信紙、上書有

伴田友左衛門

私儀、當三月下旬、痔疾相煩、之、療養仕得共

早速、杖等、之、紅紙、信紙、書物所用の信紙、取而

存、存、之、信紙、上

四月廿六日

伴田友左衛門

仲田君
大和子所出没子傳一
終至多中少後永原公

五月二十日

辰巳月廿六日 林家上 辰巳書

出没子傳 源井太郎書

右之先達の中後一上通文政七年
和子所

出席當座年進九ヶ年 相成助筆
出精お勤よの信号物標高河
又右市傳の流組
組屋友目白
一老明
出没子人
不手預進
少の
學同所
心所

振合洲上人、乃水且石市左邊、乃是吉江石門組
与政務後之憂、養子年之官後、尚二月未半、汝病
出沒云、伴清少和石市、後前文、通八、羊朱和子、亦
出沒、自傳此、此是吉江寺、以何年、出沒之人、伴清
飲、伴清少和

如字

石川新右

太文政八、西年、石物、字、相、勤、追、心、石、板、字、下、道、初、力
修、之、相、初、心、之、先、達、云、評、定、^不青、有、汝、云、伴、清、少、和、執
心、之、清、用、適、之、云、之、和、身、子、所、也、席、仁、女、子、以、其、同、汝

川、也、多、之、長、之、剛、廣、多、之、養、子、成、以、音、物、字、之、汝、
汝、初、^不上、之、重、執、有、人、曰、抑、云、成、下、傳、合、出、席、仁、清、用
相、勤、^不夜、者、^不伴、清、少、和、福、列、後、物、字、並、心、子、尚、亦
身、賴、云、仁、音、在、尚、清、少、澁、云、成、云、依、仁、夜、子、結

自傳

伴田右左衛門

右、病、氣、身、子、傳、子、若、若、汝、清、少、^不上、夜、晚、^不伴、清、少、和、
列、紙、書、付、元、上、云、云

太、之、語、若、若、抑、心、有、汝、云、成、云、抑、仁、夜、子、在、傳、依、
^不上、云、云、^不上

四月廿六日

飯沼庄右衛門

甲斐庄長三郎

飯沼庄右衛門

甲斐庄長三郎

林 大學頭

林 左近右衛門

紙面被破る各紙を後井太市郎の石川新吉氏より
取替へ給ふ所右市郎の出役之人に依りて
此紙出米少縁に依りて此紙を遣ふ所新吉氏に
取替へ給ふ所何れも取替へ給ふ

一件因取替り出役之人病卒の旨申上りて此紙を
取替へ給ふ

五月三日

上書

飯沼庄右衛門
甲斐庄長三郎

林 大學頭
林 左近右衛門

別紙書付之紙お達する所候者方より取替へ給ふ

六月廿日

飯田雄治

主簿儀和字執公身和字本下在古史料西網
子傳多政度身古後頭取下常同辰子之
洞方之政取天下古多徒公

在大和古後下中上之室中達公事

石川新吉

右助筆範在古多取重公枕古身洞下下後古席公
為之一為勝子次才事

野田孫四郎
平間榮吉

右佐助筆之儀之各方下多後勝之身才事

芳の事

村野金太郎

右様吉野調布(古席)調布(新)にて為勝と云事

一 厚二月十四日林ありの達

若菜教在
口不勝之物

右様吉野調布(古席)調布(新)にて為勝と云事

事

辰十二月廿一日おろしの女と云事

と云事

吉野調布(古席)調布(新)にて為勝と云事

野田源太郎

吉野調布(古席)調布(新)にて為勝と云事

秋去月十旬方寒瘧疾痛所打傷
不山山有苦生仕山山早速性氣
下仕山山山山山山山山山山山
助山山山山山山山山山山山山
山山山山山山山山山山山山山

辰 二月廿一日

野田德伸

見出之日の事
全田元橋書後
窺書

活活生なり
甲斐屋書三

小宮山山
中住山山山山山山山山山山
全田元橋の事

全田元橋

石人橋之全田元橋の役相支配大屋部
不須由録之三月方相
所用書物取洞元橋出書後不若第
如何了仁八付帳子窺い

己 正月

海訪店古書
甲斐屋書三

石附子丸

書而後同全由元楊氏
調和波勤茂不若節以

別紙為子而

活法亦古方如
其美亦甚之節如

林大學次
林正直如堂

以上紙波其止公控名別中

全由元楊氏之節有同書波附丸

四月廿三日達書子

石橋赤十席

右在佳兩筆之波不名方乃之皆佳佳

波其乃之乃之

暑中免調日數

窺書

諏訪在右邊

甲斐在長三郎

先達より上三書稿次郎藏書、後年々夏中風入
仕来りて先達より書稿次郎に、書物臺に
多しに感心せし、此書物体日、介仔細向書日、
石廣只于仕、此書物、子供お坊百散立、此書人
之書存、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
依、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
連日、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
存、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎

右書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
臨、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
免調、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
能、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
社、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
月、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎
不、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎、此書稿次郎

己六月

諏訪在右邊

甲斐在長三郎

書如何通元計以和元作後年得吾善以上

六月八日

福海元長三節
甲斐元長三節

右通元身下分札以等一何書通通

福海元長三節
甲斐元長三節

林大學頭
林左近右近

中山安四郎

右非書之長和字所之子公書物請用之
勤方肥後古版元作後向右達以上

九月十二日

從以列紙一通以達以上及四節下以所之
也

此列紙之列丹之寫也

一及四節以上之及作所之及在以上月身之圖
不節化一後以也及四節下以所之

天保五年
三月八日通火、自河内、后、由

清信書

源訪在古
庚辰年三月

余介九斗時頃書町、庶、合新書、亦係、亦祖、石野、源君、與、屋、處、合、
出、火、仕、場、部、洋、備、地、事、方、板、屏、不、残、瓦、燒、仕、入、庫、講、治、所、并、信、高、
別、東、堂、佛、殿、門、柱、少、燒、以、海、防、四、山、石、石、後、清、使、書、伏、見、劫、解、由、來、

右海州

以紙管仕公物、今日書町、庶、合、亦、場、部、洋、備、地、表、圍、於、燒、

仕、公、物、別、紙、少、仕、書、進、達、仕、公、物、部、事、別、收、不、中、上、燒、治、九、洋、十、

能、心、并、然、於、事、公

- 一 風、烈、方、乃、通、者、一、海、濱、所、住、屋、屋、板、和、瓦、火、之、燒、三、瓦、板、燒、出、後
- 一 同、法、各、處、亦、用、書、物、五、尺、骨、之、一、同、書、物、清、防、心、并、仍、面、別、事、終、
- 一 大、寺、仕、併、出、至、公、書、物、也、志、沒、報、仕、最、出、動、仕、海、濱、右、行、祀、瀨、
- 一 了、得、思、子、定、例、之、方、之、已、昔、換、合、海、下、山、公、物、並、取、上、至、右、在、其、外
- 一 如、何、兩、洲、下、山、之、以、改、向、上、一、乃、更、公

一 右様大披舟之威人透而しは幕屋より岸
渡りしは負紋幕之を舟布更一封に改め而
相違ぬしは舟布の如く水に下りしは右様
の如く上

三月十日

林 大守外
林 左近将監

源房左衛門
甲斐守七三郎

一 右様一封午十一月十日坊法印抄

一 天保五年十一月廿六日太田忠之郎

お返し 内乞紙出仕

身預り

新設の三月下旬に眩暈症を患ひ相如少少結核
病に因りて所醫師飯沼大徳療治諸色を養生仕
事速に之を収束せしむるに古事所より十日
了りしに依りて書す 作舟りしは

天保七年十一月

太田忠之郎 下 朱判

林大之書
林大之書

讀書

右田忠之印

同年十二月廿八日
於通後涉老之右永井
地所之殿主修後以是
右田忠之印

和紙可付上包之紙

天保七年二月廿八日
讀書舟左之通

天保七年二月廿八日
讀書舟左之通

林内組組西延
新治の森
井吉右衛門

右林大學以方書物亦用出役之

右林大學以林右近物監之

右林書林能後中殿亦波之

義井左衛門

今度書物所用之紙渡川之勤方志

和字亦出是近之振合亦合了

右林家之書

昨日肥後守殿書片より淺井右衛門
右儀に依渡り申上り候之旨勤方へ候是迄
一通り申上候事

二月晦

諏訪右左衛門
甲斐右左衛門

林大守次
林右左衛門

天保九年正月廿五日

奉

奉頓首見

重 復

私儀尚書上り候旨奉書其旨奉書相款書信等
武田道安所奉書功徳書大禮書信等名々奉書仕候
早重之儀乳仕方有旨奉書御申上り候旨奉書相款
書信等奉書 長守右左衛門

正保九年正月

大田忠之丞

林大守次
林右左衛門

東山先生遺稿

願書

大田忠三

天保六未年

飯沼庄左衛門

林大學頭

甲斐守長三郎

林左近將監

別紙書付 是道取手入子下有山

三月廿七日

千葉重玄清

其許依和學執心身和學所下取出史料

取調手傳教度者出取取取下取少少後

取取調方之取取取取取取取取取取取取

右大和古取取取取取取取取取取取取

右書取取取取取取取取取取取取取取取取
大田忠三 願書
取取取取取取取取取取取取取取取取

事の方下... 其の... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

五... 六...

江戸...

早...

七...

七月廿五日... 江戸...

三ノ部通ノ部一ノ部一ノ部一ノ部
六ノ部一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部

日蓮宗の御書

七ノ部

三ノ部通

其後之進實言見多以佛老方門の部
平川通記方門の部一ノ部一ノ部
世古方通言向考在通部一ノ部一ノ部

此方一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部
也一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部
一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部
一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部一ノ部

未
七月廿五日

日蓮宗の御書
甲斐守長官

京の佛老方門の部一ノ部一ノ部一ノ部
南未八十部一ノ部一ノ部一ノ部

世長大物... 道中... 日... 豆...

七月

山...

市川... 水...

心... 山...

山... 山...

七月

板... 板...

山... 山...

了七月十五日... 山...

天下無常之物也。如江河之水。日夜流注。無時而止。此理之明也。夫物之生也。必有其時。時至則生。時去則死。此理之常也。故君子必先慎乎始。慎始則終無悔。慎終則始無怨。此理之善也。故君子必先慎乎微。慎微則大德不虧。慎大則小德不棄。此理之要也。故君子必先慎乎身。慎身則名不辱。慎名則利不奪。此理之終也。故君子必先慎乎心。慎心則行不僻。慎行則言不妄。此理之始也。故君子必先慎乎口。慎口則言不辱。慎言則行不惑。此理之末也。故君子必先慎乎足。慎足則行不僻。慎行則言不妄。此理之終也。故君子必先慎乎心。慎心則行不僻。慎行則言不妄。此理之始也。故君子必先慎乎口。慎口則言不辱。慎言則行不惑。此理之末也。故君子必先慎乎足。慎足則行不僻。慎行則言不妄。此理之終也。

同七月

漢書卷之九

未年
林五子道

林天也書

関口林也

公に書物書おし介
和榮果史科調方
此書後河内守殿
以上三條出當書指
此書後河内守殿
以上三條出當書指

八月廿二日

飯沼元吉書指
甲斐守若高書指

林大守書
林友正書指

天保六年八月廿二日

表火書

中山高印

大株書多
以方書局
法用七段一夜
中後公也林大守
以林友正書指
一

林友正書指

主馬殿

八月廿二日

林友正書指

中山高印

書局活園の波に流るる舟の音
手紙お初に是母に云ふ一書

妙哉ふと云句

此方お後會の世書有る山中
お後之に流るる舟に中流に
之をとおんたり中流に
之をとおんたり

九月一日

江戸の舟
早業長
林方
林方

天狗文
天狗文
天狗文

天保七^丙中年

三月八日深井新次郎及清光預書元正日度身
大學以度下と違 但去未八月十二日病卒

本河村河上宅宮儀河但通

奉願山覺

和儀古之令眩暈法重熱相煩尾張殿醫師
中橋之郷所醫師善本後代公藤作文色
養生仁心侍者早達之性孝仁友名太醫師在

中少日勤之市場所之勤解江之月依
歸番云 伴方下少根身願山以上

天保七^丙中年二月

深井新次郎^下序判

林 大學頭殿

林 左近乃監殿

林友直 申三月廿六日

出役法并新理席 福康府解之通書物
涉用出役法免出役相持書及書付
在以此法後以山林同新理席之打合有之
同人等主之新理席之出役法及書付
申三月廿六日

三月廿六日

飯後在古書付
甲斐元長書付
林大學
林友直抄

申月

飯後在古書付
甲斐元長書付
林大學
林友直抄

昨日肥後守及小書付及太回汶三席及役元
伴後山有元書付之意勤方之役是之通書
林友直抄

三月廿八日

乙川伴祿守右衛門次郎下ノ後書付

太田次郎

太田次郎方書物出沒所用ノ後書付
太田次郎方書物出沒所用ノ後書付
太田次郎方書物出沒所用ノ後書付

八月廿七日

大學院方ノ後書付

太田次郎

多分書物出沒ノ後書付

乙川伴祿守右衛門次郎ノ後書付

乙川
和學所書物出沒ノ後書付

甲斐守長次郎

和學所書物

美泉源傳

和學所

村井合吉郎

太田次郎ノ後書付
太田次郎ノ後書付
太田次郎ノ後書付

不

申 十月二日

甲斐大長三郎

色

本學子所習古人之儀一古書付

甲斐大長三郎

小普法組

後友作波子組

小初定吟法方改設善致

源三進子

小会為三郎

小流

小流以序方組

本森 七古郎

古為人者禮古方和學子所法用調一序日也

折公德物少似居學位方在於公方了少上流子也

以

申 十月二日

甲斐大長三郎

不身道古學子所法下長三郎折采多隆

甲斐元長之印

林 大學頭
林 左近將監

別紙書付式通お通公乃其先よりて奉りて空

十月六日

別紙

美泉源氏
村監金印

右記右旁御所下出席の事一在り和紙病多し
了少候事奉事

小倉為三郎

森 七右衛門

右記右旁御所下出席の事一和紙下為掃子
次中事

右へ通長少濟の事
系上は次有人下下達

和学所
頭取中

林大學頭
林友直右監

酒坊庄石橋

大に汲筋手透し其て和学所細物之席に於
尼也之在肥方弓履小書方之其衣作後以北服為
心得申達以上

十一月廿三日

預書

中山夏四郎

奉預以覺

私候從當十月中旬胸痛吐血相煩壽命之枝不迫
手醫師酒井玄榮所醫師田村周目能療治請之
奉召生仁以得去早速之候幸仁乃爰方大醫師若中守
日勤之水場所之取勤辨之申度以候之為當也

作有天下山作手願以下上

天保七申年十一月廿二日

中山夏臣郎下判

林大學頭殿

林左近將監殿

天保八丁酉年

林家之連書

以我後落其去後之少費其并所
和名子而清用向此其等其後其後
其國之相連其止增決所其以存其
其亦其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其
其上

六月廿一日

甲斐守長之丞

林大学士
林九左衛門監

小貫庄太郎

私学不許用向いふは其旨に
是甲斐守長之丞一と申すは
大内宿願の何れ所の有力なる
一河内中平の張拾及なり

大内守長之丞

口述之記

信次郎

一 乙未の後に平家業小精に由りて
少る所心勉勵し一法山内之
厚く一不裁
一 乙未の後に平家業小精に由りて
少る所心勉勵し一法山内之
厚く一不裁
一 乙未の後に平家業小精に由りて
少る所心勉勵し一法山内之
厚く一不裁

玄烟斗了冠出同古乃月交公乃

一 玄烟斗了冠出同古乃月交公乃

一 玄烟斗了冠出同古乃月交公乃

大竹交改

西

大竹交改

西六月在日西田公乃出没

西田公乃

大竹交改

大竹交改

大竹交改

西田公乃

一也固人教序

右林太字以方之也清通也

行方少勇也林台松平亦采也故也
去六以行後公後中後

六月林台

井江陽教以故

散丸

法名神一方

右者法後不傳也一二五也

林台之志

此者亦後也為也書行之心也固人教序
右者法用也後也片後也自一二五也
右者法用也後也片後也自一二五也

六月

甲寅年九月
少費所也師也

林台之子以
林台之子以

木

百八日林象台示達

史料 田設子信之儀 肥後守屋中
上置山省子紙之通 各子子可也
中子子可也

八月十八日

甲斐守屋長之弟後
田中守屋長之弟後

林右守屋長
林右守屋長

右楊彌十郎

史料 田設子信之儀 肥後守屋中

田中守屋長

次林肥後守屋中

九月十八日林象台示達

甲斐守屋長之弟後
小貴守屋長之弟後

林 大學院
林 左近將監

列紙書有是通お是は乃之候各方よりて尋
達は上

九月十八日

列紙

大助等之候と右方より尋候勝手候事
元元出山事

力乙勝之物

西十二月晦日林象ノノ直

甲斐又左長三郎様
小貫清右郎様

林大學頭
林左近將監

昨日大和守殿に書付と云早川城へ通只今
之へ通出汲元作渡山守之候下渡山守可云
得之云云の上

十二月晦日

於大學以完城之通下作連之書名寫

書物清用出收只今之通下勤錄大和書

小書付在下作後下身和學所下在右勤

下

支配長井下右書下後書文寫

早川城之通

大是之通書物清用出收下後名昨廿九日

和年和泉寺殿下作後下依下後

大身和年和泉寺殿下眼坂中勢大補殿下大和寺殿

少礼也勤下寺下以年

天保九年

書物所用紙者

甲斐左長三郎
小費紙右席

小普清組

久為十條支配

本間覺藏

大覺藏後天保之辰年又月書物所用物字元
作後お勤右左の紙お支配所賣了右の紙十左
中後支配用紙多右成紙月物字一方紙以上

有中ノ紙依了紙紙中紙以上

十月十五日

甲斐左長三郎
小費紙右席

書物所用物字者

再右

兎

小指筒紙

松年能左長三郎

佐天橋藏

大橋藏後和字紙人清書物所用物字元紙左

中子本同覺藏物字則以何之通也予計其成也
大明跡物字予作後非以度字何依一其後字何也

十月十六日

和學所警古子後字何也書付

与右

小善結組
善村母後子組
与藏牌

城戶清春

太清台後和學子執人身禮方下旁和學不請用潤
席下在公授命抄出物号似度字何也

下字以依了此後字何也

十月十六日

与右

太之通林表下長二郎抄来を達

甲抄文在長二郎抄
小貴流石郎抄

林 大學頭
林 石通將監

別紙書付二通お達以るに候各方より

てきり達以上

十月廿二日

本回覚意

大物等終り至る水立の事

源氏橋藏

大府物等之候に各方より寄附膳の事

てきり出の事

城戸清右

大禮古寄酒所に出席の事以後の事

の次等出の事

十一月十二日

林大學

成務邦之物

林左近好監

大學改年号以爲内願之通原堂勤且月次海新
即先立成以左近好監後只今之大學改以通原好併
大學改後學同所改了爲仁之介在通原堂
是とて通原 併有也

大於與相併

甲斐文左長二郎根
小貫源太郎根

林大内記
林大學頭

大學頭事

大内記

左近好監事

大學頭

大内通波改名以依了了達以上

十一月十二日

和興子不
出役改文中

林大内記
林左近将監

令田元瑞

羽比奈又藏

大内後後有... 十二月八日自宅...

... 十二月十日 ...

十二月十日

... 十二月十日 ...

小普法組

大内後後有...

... 十二月十日 ...

令田元瑞

浪又改

書物清用出役年來改出精...

... 十二月十日 ...

大内通... 十二月十日 ...

... 十二月十日 ...

浪又枚

支配勘定

者八郎伴

甜比奈又藏

書物清用出沒年來沒出積以身以復以

りて下

大河内与度以書付中浪以事

一甲斐元長三郎清保之左之和之太之書付一編大學以左之下
平後掃部以左之和之究其熱以左之和之礼之段也和之名長三郎
平之和之左之和之下之和之左之和之下之

書物清用出沒一者有預以書付

甲斐元長三郎
小貫清太郎

西丸

清書洗音以

乙川大隅与芳

千葉宗直之書

成歲四十八

太守之清保天保六年四月書物清用史料調
身傳和作後以和之懈急出積仕和勤老之和左下之和左下之和左下之
兎山勝之近西丸之表火之書元作身和以身太明誦書物
清用出沒和作後下和左仕度身有和以和之然後身

預小以上

戌
十二月

甲斐文長三郎
小貫清太郎

甲斐文長三郎
小貫清太郎

林大内記
林大學頭
林式部

昨日相摸与及小書付与以千葉守之清出役

元作渡小舟其得之立勤方之役是也了百之
元月清以上

十二月廿八日

乙川大隅与气印与及後書月

千葉守之清

千葉守之清

共方後林大内記林大子以方書物以用
出沒元 作月以旨那廿七日永井肥茶を殿以
清書付元佐渡小

成
十二月廿八日

林泉宅の宛てて書付

千葉宗宣之清

今度書物清用出級元佐渡小の勤方と
和菓子所へ送是乞とて振合水り合てり小

天保十年

書物清用の件云々一上書付

小普請組

夏同日向子組

力乙膳之物

天保三年十二月朔古書清用調度席下紙
お給ふ和山少海と成下四八酉年九月書物清用物
元佐渡

太膳之物依江懈急出積相勤の去り度より千三子
年々清出沒元佐渡小有太明経書物清用出級
作後宗依及子物候し時候一上以上

書物淨用物字之去一上云書付

甲斐元長三郎
小貫源五郎

小部定吟味方改紋並

小倉源三郎

小倉為三郎

亥歲三十一

天保七甲午年十月經古書淨用調物
相和知少漸成下出席信

天保十

右為三郎後實伴成志与子跡茂お通之仁公与
力之勝之物書物淨用出役子信之伴後以之勝之物
跡物字之伴後以之信及子信之伴後以之信

亥
正月

甲斐元長三郎
小貫源五郎

甲斐元長三郎
小貫源五郎

林 大學院
林 式部

別紙之紙西田金次郎下通達等

二月十日

別紙

西田金次郎

大酒物進子入山松子
尾羽編酒と若折紙

力之勝

史料酒物進子傳

大石玄蕃

小会

大物等之後

て

尾羽編酒と若折紙

二月十日

書物汚用物等者一古書身

甲袋巻書三冊
小貫保右衛門

小善法組

尾村丹後守組

尾藏巻子

江戸清右

玄藏拾九

大清右儀和學概ん身稽古身酒不下子身度
お預の巻五十月一古和何通ツ身漸成り後
甲の身席仁介稽古人より、指別公指、去且元年
學問不考宿仁居の身授合物身巻編、儀成

江戸府集矣、後子お身る物等、身作後、身在仁度
身好の物等、式人稽古人の身、定、身在の身
通、身を物等、二人、身お、身共、稽古人、物等、身
身出、身去、身より、書、身稽、身号、身の、身極、身儀、身身、身
免、身法、身極、身遠、身の、身儀、身身、身度、身人、身願、身為、身色、身等
上、身身、身物、身等、身身、身人、身明、身身、身と、身の、身身、身耕、身科、身下、身の、身後、身お、身
身向、身身、身多、身稽、身古人、身式、身人、身仁、身重、身下、身の、身右、身の、身
身人、身教、身場、身の、身儀、身身、身宿、身身、身耕、身科、身場、身の、身儀、身身、身宿、身
身小、身身、身身、身お、身身、身下、身の、身通、身身、身作、身後、身の、身儀、身身、身宿、身
身儀、身身、身身、身一、身古、身不、身上

亥
四月七日

甲斐元長三郎
小貫清左郎

和子所給者古人後子何言付

連名

小善法組

五月日何子組

中山奥左郎

亥
亥
亥

大奥右郎後和子権心身給者古寺清用組
席下子と授合抄出物等何と給者何と候者何と

名尸何と候し時候子何と以上

亥
四月七日

甲斐元長三郎
小貫清左郎

甲斐元長三郎
小貫清左郎

林大内記
林大學記
林式部

別紙式通取違ひるし候者方よりて是等

亥
七月廿二日

城戸清吉

大物守之儀に各方より常流掃子次等
乙亥辰出山事

中山奥吉郎

大禮古寺洞所に出席し各一の儀可為

勝子次等山事

大書角 御節日 西人下達

弟出奔仕の身尋死候儀以届

早川城一途

西屋孫
西屋友孫高
伊藤守孝子

乙獨長三郎

大長三郎社矣方弟 西屋孫出奔仕の身尋死
以候平和泉寺殿以書付と云候儀以各町支配
早川是村丹後寺昨十一日午後以信了此候中一書付

亥
十月十二日

早川城一途

奉約の書付

甲斐守長三郎
小貫清右郎

早川城に近き方より不為長三郎出奔江口
尋出り作左伴波少佐川原上へ江口交海に近見
乙川遠酒物積田新々備置長三郎尋出り作
左伴波少佐二人共小性組お前を去る為青目
出勤仁當青目へお出尋に中へ居るに青目海邊
私學^{所出勤}に波少佐へ結^ひ時候子何以上

亥
十月十日自

甲斐守長三郎
小貫清右郎

大為通共候所へ長三郎お前を去る為青目海邊
陣多分承違年へ及候況也

甲斐守長三郎
小貫清右郎

林大内記
林大學頭
林式部

別紙通りなる承り候事へ長三郎

以上

十月十八日

書面早川城之近後洞所出勤並之通ある
以休日之長お尋い旅て多し達ん中

石通等城の石屋通水洞よりなる

早川城之近後洞所出勤並之通
あるの休日之長お尋い旅て多し
達ん中
十月十八日
甲斐守長三郎
小安海五郎

十月廿四日大守殿度平、流山後有之は不取
之内是人が賊の所を誠なる長三郎お早川
城之通並お尋い洞所出勤並之通あるの休日
之長お尋い旅て多し達ん中
お尋い旅て多し達ん中
お尋い旅て多し達ん中

此城通下

大之通城通下

小屋

早川城之近

覺

一 和実方并之瑞長三郎出奔身尋出以旅先達与
永伴渡お身を立ふれ一昨口日水身照坂中務有敵
永伴渡從支肥津田兵遣多後以依之其候以守
上云以上

亥十二月六日

早川城之近

右の翌五日の支肥宅よりて一後方より

轉宅門移小屋

早川城之近

覺

和成只今と麻多分産所実兄様由新書書方
同和仕在立和家化手授身口谷付馬所并
夏店由流字同不勤書冷代涼之書方以分
之内同和仕度一立和支肥津田兵遣守固作
相謝昨廿七日川移上候一其候中候一上云上

亥十二月廿八日

早川城之近

忌服市属

是

早川城之進

一 和養方妹今廿四日卯刻病死休

忌二十日

二月廿四日

二月十三日迄

服九十日

二月廿四日

六月廿六日迄

衣之通忌服法依之由届中亦以上

子 二月廿四日

早川城之進

